令和３年度　京都府立西舞鶴高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（全日制）　（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
(1) 希望進路を実現できる学力の充実・向上	(1)　「総合的な探究の時間」では生徒の主体性やSDGsの視点で提言できる力を育てる実践を行い、一定の成果が見られた。また、授業改善のために、公開授業や授業アンケートを実施した。今後は、主体的、対話的で深い学びをさらに充実させるために、教員の教科等の指導力を高め、実践して行くことが大切である。	○普通科と理数探究科それぞれの特色を活かした主体的、対話的で深い学び・探究活動とともに、ＩＣＴ機器を活用した授業改善も進め、質の高い学力と希望進路の実現につなげる。
(2) 規範意識や人権尊重の理念の更なる徹底と生徒の人間力の伸長の実現	(2)　３年生については、組織的な指導体制の整備を図ることで希望進路に応じた丁寧な指導を進めることができた。これまでと同様に、進路指導に必要な情報、指導方法を共有し、１年次では学力の定着と文理選択を図り、２年次では具体的な希望進路を確立させることを大切にしていく。	○生徒の自己有用感・自尊感情を育む場面を増やすとともに、挨拶を大切につながり切磋琢磨する文武両道の校風を学校全体で共有し、生徒一人一人の自己ベスト更新を支える。
(3) 保護者・地域住民の信頼を高める学校づくりの推進	(3)　部活動では、地道に努力する生徒と献身的な教職員の支援により、コロナ禍において必要な注意を払いながら活動が行われた。中止となった大会等もあったが、全国大会や近畿大会に出場した生徒もいた。今後も、学業と部活動の両立のための支援を継続していく。また、社会性等を身につけるために学校行事などの特別活動においても積極的な活動を行うとともに、成人年齢の引き下げに伴い、さらなる主権者教育の充実が望まれる。 (4)　新型コロナウイルス感染症対策として様々な指導を行った結果、規模等の多少の変更はあったが、多くの教育活動を中止にすることなく実施できた。挨拶の励行、ボランティア活動の活性化、人権意識の向上、学校生活になじめない生徒への手立てやいじめ・体罰の防止には今後も重点的に取り組む必要がある。 (5)　地域社会に貢献し、その期待に応える学校づくりを進めている。ホームページ、西高だより、西高理探だより、新聞広報を通して、中学生や地域の方に本校の教育活動の成果がよくわかるよう情報発信を行った。さらに「地域に開かれた学校づくり」を充実していく必要がある。	○多様性と調和を大切にする人権尊重の態度を育むとともに、交通安全や情報リテラシーを高めて命と安全を守る教育を推進する。 ○学校運営協議会発足を契機に地域連携を一層進め、「社会に開かれた教育課程」の具現化を図るとともに、保護者の信頼や中学生の学校理解・志願を高める広報活動を推進する。 ○働き方改革を進めて教職員の心身の健康を促進することと併せて、教職員の同僚性を高め教育の質を向上させるためのＯＪＴを推進する。

評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	教職員の資質能力を高め、学校全体の教育力の向上を図る。	全教職員が互いに教え合いながら切磋琢磨し、日常的に自己の教科指導力、生徒指導力、業務遂行力を向上させるなど、自立的な人材育成を図るための職場環境作りと研修の場を充実させる。 分掌部長・教科主任を核に、本校の課題に対する共通理解を深め、新たな提言や知恵を結集させて学校運営・教育活動の一層の活性化を図る。	A	B	【成果】 ○新型コロナウイルス感染について、京都府教育委員会との連携、校医による助言により、生徒・教職員の感染拡大を最小限に防ぐことができた。 ○各種会議をペーパーレス化し、また教職員間の連絡調整をプラットフォームで行うなどして作業時間の縮減に努めることができた。 ○全教員に1台ずつ端末を準備し授業で活用した。また次年度入学生の1人1台端末導入について、ICT機器の効果的な活用方法を全教職員で研究をすすめている。 ○特色推進部、理数探究科学科長を中心として探究活動を推進することができた。 ○ホームページ、西高だよりの充実により、中学生への情報発信を効果的に行うことができた。また、様々な取組を報道機関へ案内することで、府民に対しても情報を発信することができた。 ○教育用プラットフォームを利用して、保護者や生徒向け連絡をスムーズに行うことができた。 【課題】 ○次年度以降に向け、新たな授業デザインを模索し、質を向上させるよう教科・分掌に働きかける。 ○分掌間の連携を円滑にし、スムーズな校務運営につなげる。 ○自律した学習者としての生徒育成に努める。
	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	生徒には、一段高い目標を持たせ、自己の変容を実感できるよう指導を行う。そのために、主体的・対話的で深い学びや、探究活動を推進し、学力の向上・進路希望の実現・特別活動の充実を図ることで、生徒の生活の自立と学習の自立を促す。 スマートスクール推進事業により配置されるICT機器を活用した授業をデザインする。	B		
	学校の取り巻く状況を見据えた学校改革を図る	学校説明会の内容の充実と小・中学校等地域との連携の強化を進める。中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを行う。 本校の教育内容・実践等に関して、ホームページ、西高だより、新聞を使って情報発信し、「地域に開かれた学校づくり」を推進する。	B		
	学校の取り巻く危機に対して万全の対策を図る	学校の安全を様々な危機から守るための校内体制を作るとともに、京都府教育委員会や関係機関と密な連携を図る。保護者への連絡をスピーディに行う。	A		
教務部　校務運営	教科指導力･ICT機器活用力向上への取組	研究授業を全教員体制で実施し、実態の把握に努め、ICT機器の効果的な活用方法について研究を深める。	B	B	【成果】 ○ICT活用を意識した研究授業の公開を実施することができた ○時間割を工夫し教科の取組が円滑に行えるよう尽力した。 ○コロナ対応により学校行事の実施を見合わせることになったが、代替行事等で対応することができた。 ○各教科と連携して、来年度新学習指導要領実施に向けて、評価について協議を重ねることができた。 【課題】 ○来年度のBYODに向けてICT活用事例を集め教員の意識を高める取り組みを継続する。 ○BYODを活かした基礎学力向上にも取り組む。 ○欠席や休校時に持続的に学習できる環境を整えていきたい。 ○新学習指導要領のもとでの評価について議論を重ねる。
	基礎学力充実に向けた取組	各教科での取組を支援し、学習環境の調整・整備につとめる。	A		
	勉学と部活動の両立に向けたシステム作り	行事の精選や各取組の整理をし、両立を妨げないような環境を整える。	B		
	育成すべき資質･能力を踏まえた評価基準の作成	新学習指導要領実施に向け、育成すべき資質・能力の共通理解をはかり、各教科での評価基準作りを進める。	B		

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価			成果と課題
生徒指導部	規範意識	挨拶の励行、規範意識の向上	挨拶を大切にし生徒会役員を中心に挨拶運動を広げ、生徒が心地よく生活できる環境をつくる。	B	B	B	【成果】 〇生徒会本部役員・局員を中心に挨拶運動に取り組んだ。昨年よりマスク着用・黙礼を励行していたこともあり、 今後も継続しよい環境・雰囲気をつくり出したい。 〇服装規定は概ね守れている。個別指導など丁寧な指導が行えた。 〇端末の使用方法は守れており特に問題等はない。 〇いじめ調査においても問題事象はなかった。 〇生徒会本部役員会を定期的に行い学校行事や活動を検討、全校に呼び掛けることができた。 〇ボランティア部を中心に清掃活動や駅前花壇整備などを実施した。 【課題】 〇西高生としての自覚及び規範意識を高めていく 〇盗難などを防ぐため、防犯体制を整える 〇タブレットとスマホの使用方法について規定を設定する 〇ボランティア活動をさらに活発にしていきたい。
			規範意識を高め、生徒同士がルール・マナーを守ることで快適に学校生活を送れるよう指導する。	B			
	安全・安心	安全・安心な学校の体制づくり	自己管理・危機管理の徹底、自己指導力の育成により、事故・トラブル等を防ぐことができるよう指導する。	B	B		
			スマートフォンの取扱やＳＮＳの利用について意識を高める教育をする。	B			
	いじめ防止	いじめの防止と早期の対応	すべての教育活動を通して、人権意識を高めいじめを許さない姿勢を示し未然に防ぐ。事象が生じた場合は、迅速に対応し早期に解決を図る。	A	A		
			いじめや問題行動の早期対応を図り、関係者と連携を密にし解決につなげる。	A			
	特別活動	主体的な生徒会活動	生徒会本部役員・局員、クラス役員など主体的な生徒会活動を通して、各種行事等の特別活動が効果的に実施できるよう支援する。	A	B		
		積極的なボランティア活動への参加	多くの生徒がボランティア活動に積極的に参加できる機会と環境を整える。	B			
進路指導部	希望進路の実現	教育相談（ケアリング）の強化	各学年部や分掌との連携を密にし、生徒の「自己ベスト」更新を支援する進路検討会を実施する。個に応じた指導の手立てを図り、丁寧なケアリングに努め、教育相談的機能を高める。	A	A	B	【成果】 〇進路指導部と担任との検討会を実施し、各生徒の実態に応じて、適切な進路情報の提供や支援の手立てについて共通認識を図ることに努めた。 〇各学年の過年度比較、過回比較などをおこない、学力実態の把握に努めた。 〇新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面型に加えて、オンライン型のガイダンスを適宜実施した。 〇各種の土曜活用の事業も含め、大学教員や社会人など学校外の優れた人材を有効に活用し、内発的動機づけの一助とすることができた。 〇公務員については複数の合格者を輩出できた。 〇本校ホームページに進路指導に係る記事を随時掲載し、地域住民はもとより中学生に適切に掲載記事を発信し、「信頼される学校づくり」の一翼となるように努めた。 【課題】 〇民間企業希望者が若干数にとどまり、当初予定の労働法規ガイダンスを中止したり、外部講師の電話応対マナー実習などもコロナ禍の拡大のため未実施を余儀なくされたことは残念であった。 〇第3学年部のみならず他学年部との連携をさらに密にしていく。
		生徒の学力の一層の向上	各種模擬試験を有効に活用し、模試分析や進学課外等を通じて、生徒の「質の高い学力」の構築を促すとともに、生徒一人ひとりの「自己ベスト」の更新を図る。	B			
		各種進路ガイダンスの充実	「社会に開かれた教育課程」の観点から、学校内外の人的資源を有効に活用し、各種ガイダンスを強化することを通じて、生徒を内発的に動機づけ、自尊感情や自己肯定感を向上させる。	A			
		「社会人としての自覚」の醸成	就職希望者への丁寧な職業紹介を行うとともに、労働法規に係る学習、社会人マナー実習などの「内定後指導」を実施し、社会人としての自覚を一層高める。	C			
	研修の充実	次年度を見据えた研修の充実	大学入学共通テスト実施、新学習指導要領導の次年度実施等をふまえ、各種研修のあり方について検討し、生徒に速やかに還元できる体制の樹立を図る。	C	C		
	信頼される学校づくり	各種情報の適切な発信	ＩＣＴ機器などの有効活用や本校ホームページの記事掲載を通じて、生徒、保護者、地域への情報発信機能を強化する。これらを通じ、生徒や保護者から「信頼される学校」「中学生に選ばれる学校」づくりを図る。	A	A		
保健部	心身の健康管理	配慮を要する生徒や心の健康問題の早期発見及び対応できるような支援体制作り	学年部や教科担当者と連携し、気になる生徒について共通理解を図る。また、適切な支援を組織的に行う。	B	A	A	【成果】 〇個々の生徒の現状を把握し、学年部との共通理解のもと、可能な限りの支援を行うことができた。 〇スクールカウンセラーや専門機関との連携を図って、可能な限りの支援を行った。 〇コロナ感染予防対策については２年目でもあり、ある一定の理解のもと対応することができた。それによって校内においては感染が拡大するような状況にはならなかった。 〇保健・厚生委員会で「清掃状況点検」を実施することで、校内美化に対する意識を高めることができた。 【課題】 〇大半の生徒は、ある程度の自己管理ができるようになってきたが、特定の生徒に対しては課題が残った。
			スクールカウンセラーや専門機関との連携を図り、支援の方向性にそって共通理解のもと行う。	A			
		感染症・熱中症対策	教職員や生徒への啓発・広報を通じて、予防に努め、適切な対応をする。	A			
			健康観察を行い、自己管理する力を培う。	B			
		教職員研修等	薬物乱用防止、メンタルヘルス、特別支援に関する研修を実施する。	A			
	安心・安全な学校生活	清掃活動の充実	校内美化に対する意識を高め、快適な学習環境作りに務める。	B	B		

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価			成果と課題
特色推進部	開かれた学校を創造する	広報活動の充実	理数探究科及び普通科の教育システム等の情報、あるいは本校の特徴的な取組等を、高校説明会や学校公開等の機会を通じて中学生・保護者・中学教員向けに効果的に提供する。	A	A	A	【成果】 〇中学校での進路説明会、学校紹介ビデオ、体験セミナー等、様々な行事や広報媒体を通じて本校の教育活動を広く伝えていくことができた。 〇本校の教育活動のICT化に向けて機器の研究や活用を推進し授業でも様々なツールを活用することができた。 〇学年部や外部組織と連携しながら探究活動を展開することができた。 【課題】 〇広報活動について、新聞社との連携をさらに深める必要がある。 〇ICT機器を使いながら学力向上のため、また「主体的・対話的で深い学び」につながる工夫を進める。 〇「総合的な探究の時間」の計画・実施をより組織的で計画的に行っていく。
			学校生活における生徒の活躍を、ホームページや広報紙等で迅速かつ活き活きと伝える。また、地域の新聞社など情報機関と連携した広報も行っていく。	B			
	スマートに学べる学校を創造する	校内ネットワークの整備	ネットコモンズ、ＤＣ１、ＴＥＡＭＳなど校内ネットワークの整備、利用推進等を通して学校情報のデジタル化を図り、より早く、正確な情報伝達ができるよう務める。	A	A		
		ＩＣＴ化の促進	スマートスクール担当との協力により、授業のＩＣＴ化を促進し、知識・技能だけではなく、思考力・判断力・表現力を身に付ける授業が行えるよう支援する。	B			
	広く深く学べる学校を創造する	図書館活動の充実	図書委員会活動等を通じて生徒に図書館の利用を促し、読書活動や調べ学習を支援する。また、芸術鑑賞会など、生徒の心を豊かにする活動を展開する。	A	B		
		「総合的な探究の時間」の企画・立案	学年部と協力して普通科の「総合的な探究の時間」の企画・立案を行い、多様な学習方法によって「主体的・対話的で深い学び」を実現する。	B			
理数探究科	先進的な理数教育	科学体験行事の充実	３年間の科学体験行事の実施方法や発表方法を見直し、体系的な科学体験行事となるようにする。	A	B	B	【成果】 〇連携機関との調整により活動を円滑に運営することができた。 〇探究活動について、テーマ設定から研究手法、実験データの扱い方や科学的な考え方について質の向上を図ることができている。 〇大学講師のアドバイスをいただくことで生徒のモチベーションを向上させることができた。植物生理学会や他校のSSH研究発表会で発表する機会を持つことができた。 〇他教科と連携し、英語や日本語で研究内容の説明を行う機会を設けたことにより、プレゼンの経験値があがり生徒自身が課題に気づくことができた。 〇例年連携している大学に加え、連携協定に基づき京都府立大学との連携など、様々な大学・研究機関と連携することができた。 【課題】 〇教員間の目線合わせや内容の共有は今後の課題である。 〇学年部、各教科担当者と連携を取り、進路実現に向けて指導する。
		課題研究の充実	テーマ設定の段階から丁寧な指導を行い、スムーズな研究活動ができるよう指導する。研究内容は、生徒の興味関心を高めるために、また研究をより意義深いものにするために地域資源を活用することを心掛ける。実験やデータの取り方などを適宜見直して、より質の高い課題研究を目指す。また、評価方法を研究し、指導者間の連携と生徒の活動状況を共有する方法を研究する。 また、スーパーサイエンスネットワーク(SSN)京都事業のサイエンスフェスタでの発表も視野に入れた取り組みにする。	B			
		課題研究指導力の向上	大学講師を招いて、教員の意識も高める。海洋教育パイオニアスクールプログラムを活用して、課題設定段階からの生徒への指導力の向上を目指す。	B			
		発表を通じた言語活動の充実	校内・校外の発表会を数多く経験させることにより、口頭発表・ポスター発表・記録集の作成など様々な形態で体験・研究活動を効果的に他人に伝える機会を数多く設ける。	A			
		科学技術コンテスト参加の奨励	各種科学コンテストの情報を効果的に発信し、自主的に科学を学ぶ生徒を育成する。	B			
	希望進路の実現	高大連携の推進	京都工芸繊維大学や、京都大学フィールド科学教育推進センターとの協力体制を深め、新しい高大連携の在り方を検討する。	A	A		
		受験指導力の向上	分掌間・教科間連携により、学校全体で取り組む授業力・教科指導力の向上に様々な形で貢献する。	B			
人権教育	人権学習	さまざまな人権問題について正しい認識と問題解決のための行動力を培う	学年部や各分掌と連携し系統的・計画的に人権学習を推進する。	A	B	B	【成果】 〇計画に従い各学年の人権学習を実施できた。 〇舞鶴市との連携により、3年生対象の「デートDV」についての学習を実施することができた。 〇教員向け研修をオンラインで実施し、各校の取組や人権課題について学ぶことができた。 【課題】 〇新たな取り組みや日常的に人権啓発に努めることで、生徒の人権意識の高揚及び行動力・実践力を育てる必要がある。 〇教職員の人権意識を高めるため互いの研鑽を深めるため、情報の提供や意見の交流を積極的にする必要がある。
			時代のニーズに応じた学習教材・内容を研究・検討し、手法の工夫・改善に取り組む。	B			
			人権課題の解決の主体としての行動力・実践力を育てる学習を展開する。	B			
	連携	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	学年部・生徒指導部・保健部等と連携し、いじめの防止や困難な条件を持つ生徒の把握・援助に努め、進路保障を図る。	B	B		
			中舞鶴保幼小中高連絡会等との地域連携を一層深め、就修学の保障に努める。	C			
	研修・研究	全ての教育活動を通じて人権教育に取り組む観点から、人権感覚を日常的に育む。	全教職員が人権教育に対する認識を深め、人権意識の高揚を図る。	B	B		
			研修会等に積極的に参加し、様々な人権課題に対する実践的考察や手法等を身につける。	C			
			人権教育全体計画に従って、各教科の授業や取組において人権の視点を踏まえた指導を考察し、展開する。	B			

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価			成果と課題
第１学年部	学習指導	基礎学力の充実	授業を中心に基礎的な学力を身につけ、思考力・判断力・表現力を養う。	B	B	B	【成果】 ○２年次からの文理選択および科目選択などを通じて、各自の進路実現に向けてより具体的な検討ができた。 ○Teamsを主要な連絡手段として位置づけ積極的な活用を促した。 ○担任面談や三者面談を通して、各自の進路目標に関して検討する機会を設け、進路別ガイダンスでさらに進路実現に向けての意識を高めることができた。 ○理数探究科では、野外実習や大学の研究者との交流により自然科学に関する興味・関心を高めることができた。 ○基本的生活習慣の確立は概ねできた。 【課題】 ○挨拶について、コロナ禍の中で積極的に奨励できなかったが、感染状況を鑑みて段階的に励行していかなければならない。 ○援助の必要な生徒に対して積極的に関わる思いやりの心を育んでいく。
			システム手帳を有効活用させ、家庭学習の習慣を確立させる。	B			
		進路実現に向けての取組	面談や体験学習などを通して、生徒本人の自己理解を深め、自らの進路実現に向けて意欲的に行動させる。	A			
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	教室美化を徹底させ、よりよい学習環境を作る。５分前集合や、提出物の期限を守らせる。教師から積極的に声かけをして、挨拶を励行させる。	A	A		
			校則や交通ルールなどの生活規範を尊重する態度を育成する。	A			
		特別活動等への意欲的な参加促進とその活動を通じた社会性や人間力の向上	学校行事・生徒会活動やＨＲ活動へ積極的・計画的な参加を促すとともに、部活動と学習を両立しようとする姿勢を育成する。	A			
	インクルーシブ教育	車いす生徒の受け入れ体制の確立	障害のある生徒が障害のない生徒と共に教育を受けることで、「共生社会」の実現を目指し、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者が、積極的に参加・貢献していくことを促す。	B	B		
第２学年部	学習指導	主体的に学習する習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。	「予習・授業・復習」のサイクルを大切にしながら、特に授業を中心として、基礎学力の定着を図る。	B	A	B	【成果】 ○長期休業中に保護者と生徒と担任での三者面談を実施して家庭との連携を図った。 ○進路指導部と連携し、模試対策や進路ガイダンスを設けて自分の進路について考える機会をつくった。 ○ICTを活用し週末課題やテスト対策を実施することができた。 ○様々な制限のある中で、ほぼ全ての生徒が校則を守って規則正しい生活を送ることができた。研修旅行でのマナーもおおむね良好であった。 【課題】 ○学習に対して苦手意識を持つ生徒への対応を丁寧にしていく必要がある。 ○欠席が増える生徒に対し継続的に対応する必要がある。
			教科担当者との連携を密にし、各学級の学習状況や個々の生徒の様子を共有し、特に学習に不安を持つ生徒に対して、個人面談をするなど、丁寧に指導する。	A			
		希望進路の実現に向けた取組の充実を図る。	進路に関する情報を提供し、希望進路（目標）をできるだけ早期に決定し、その目標に向けて学習意欲を高め、学力の向上を図る。	B	B		
			進路指導部と連携して、自分の進路について考える機会を設けるとともに、模試などを利用して面談を実施し、その意識を高めさせる。	A			
	生徒指導	生活規範を尊重する態度を育成する。	集団の中の一人として自覚を持ち、ルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	B	B		
			様々な教育活動を通じて、挨拶の励行や相手の立場を考え思いやりのある行動をさせる。	A			
	保護者との連携	保護者との継続的な連携を図る。	保護者面談等を行い、家庭との連携を密にし、家庭の様子や学校での状況を交流し、生徒の指導に活かす。	A			
第３学年部	学習指導	希望進路を実現できる学力を身につけさせる	教科担当者との連携を取り、学習習慣の定着を図り、自立した学習者へと導く。	B	B	B	【成果】 ○進路指導の面では、特に各種推薦入試の対策において、他分掌や各教科担当と連携し、学校全体で取り組むことで、一定の結果を出すことができた。 ○一般入試に向けて実力上位者は順調に成績を向上させた。 ○コロナ禍にあって学校祭が大幅に縮小されたが、生徒会本部役員を中心に検討を重ね、球技大会という実施形態で開催することができ熱心に取り組み、クラスの親睦を深めることができた。 ○希望進路実現に向け、日々の二者面談や長期休業中などに三者面談を行い家庭と連携を密にし納得のいく進路選択となるよう努めた。 【課題】 ○成績面で伸び悩む生徒への対応を丁寧に進める必要がある。
			模擬試験等を通じて自己の実力を把握させつつ、進路情報を提供し、学習意欲を高め、希望進路の実現を図る。	A			
		希望進路の実現に向けて、効果的な取組を行う	将来を見据えた進路希望を持たせるとともに、その把握に努め、個に応じた適切な指導を行い、学年全体が一致団結して受験という団体戦に挑ませる。	B			
	生徒指導	特別活動や部活動等への参加を促し、活動を通して社会性や人間力を向上させる	部活動、生徒会活動、学校行事、特に学校祭の取組において、リーダー性を発揮できるように導く。	B	B		
			将来の面接試験を念頭に置き、期限や時間を守らせるとともに、身だしなみを整えさせ規範意識の高揚を図る。	B			
	保護者連携	進路に対する生徒と保護者双方の考えを把握する	学年団全員が協力して取り組み、情報共有を図る。保護者との連絡を密にすることで、生徒だけではなく、保護者にも信頼される関係を構築する。	B			

<table>
<tr><th colspan="2">評価領域</th><th>項目（重点目標）</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評　価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td rowspan="5">事務部</td><td rowspan="2">教育環境の整備</td><td>生徒及び教職員が安全・安心な学校生活が送れるように教育環境を確保する。</td><td>校舎・施設等の適正な維持管理に努める。また、施設設備の危険箇所の早期発見及び早期対処を行う。</td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="5">B</td><td rowspan="5">【成果】
〇予め計画されていた改修や突発的な修繕について対応することができた。
〇老朽化の進む施設設備が多いが、体育館のLED照明化など環境向上に繋がる改修を行うことができた。
〇危険箇所への早期対応を行うことにより大きな事故が生じることがなかった。
〇教室プロジェクタの増設などICT機器等の整備を進めることができた。
〇電話・窓口対応や生徒の修・就学支援については、丁寧な対応を行うことができた。
〇会計事務処理について適正に処理を進めることができた。
【課題】
〇職員の相互チェックを一層高め、事務処理遅延や軽易なミスが生じないように引き続き努めていく必要がある。</td></tr>
<tr><td>学校の特色化を進める設備・備品の充実</td><td>探究活動や理数教育等の特色のある教育活動を進めるための効果的な予算執行に努める。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>信頼される学校づくり</td><td>学校の窓口としての接遇向上</td><td>生徒、保護者、来客者及び地域住民に対する窓口対応、電話対応等明るく丁寧な対応を行う。</td><td colspan="2">A</td></tr>
<tr><td>修・就学支援</td><td>生徒の修・就学支援の充実</td><td>保護者・生徒に対する十分な案内周知と丁寧な対応を行い、就学支援金や各種奨学金事務を円滑に実施する。</td><td colspan="2">A</td></tr>
<tr><td>会計管理</td><td>適切な会計事務の執行</td><td>職員相互のチェック体制を強化し、給与、旅費及び会計事務等の適正な処理に努める。</td><td colspan="2">A</td></tr>
<tr><td colspan="2">学校運営協議会委員による評価</td><td colspan="5">西舞鶴高校に対する保護者や地域住民の関心は高く、期待も大きい。コロナ禍で様々制限されるなか、工夫して教育活動を継続している点は評価できる。1人1台端末を持つ学年の入学や18歳成人となる高校生の教育について、授業や活動を工夫・進化させ、生徒の希望進路の実現だけでなく、安心安全の保障された学校を維持して欲しい。また、教育活動についての情報をより活発に発信することで、地域からの学校理解が高まるようにし、地域の基盤を担う教育機関として一層の高みを目指す教育活動に励んでもらいたい。</td></tr>
<tr><td colspan="2">次年度に向けた改善の方向性</td><td colspan="5">■京都府立大学や舞鶴市など、外部関係機関との連携により、探究的な活動を充実させ、主体的、対話的で深い学びを深化させていきたい。
■学力向上、希望進路の実現のために、組織的な取組と指導体制の充実を進めていく。
■保護者との連携を密にし、タイムリーに情報提供ができるようにする。</td></tr>
</table>

評価　A：十分達成できている（目標以上の成果が得られた）　B：ほぼ達成できている（ほぼ目標通りの成果が得られた）　C：達成できているとはいえない（成果はあったが、目標に達していない）　D：ほとんど達成できていない（ほとんど成果がなかった）